

いずみさの昔と今 第368回

「政基公旅引付」にみる七夕

7月には五節句のひとつ、七夕があります。現在では七夕といえは短冊に願い事を書いて笹に吊るすイメージが強いですが、昔はどうだったのでしょうか。文亀元(1501)年から永正元(1504)年に日根荘で過ごした九条政基の日記「政基公旅引付」を元に見ていきましょう。

日根荘滞在中の政基は文亀元年の七夕の日に3首、文亀2年と文亀3年には7首の和歌を織姫と彦星に献じています。特に文亀2年と3年に7首詠んでいるのは、七夕では7の数字にちなんで7枚のカジの木の葉に漢詩や和歌などを書いて織姫と彦星に奉納すること、芸能の向上や恋の思いが遂げられることなどを祈る風習があったことによります。これが今の短冊を飾る原型と考えられています。

さす棹までよく見えるが、旅先である日根荘の彦星と織姫が出会う星空は見慣れないものだ」が記されています。七夕の和歌では、彦星が天の川を船で渡って織姫に会いにくくものが多い、この和歌もその一例と読み取れます。

また文亀3年の七夕では「七夕にかすや干草の花衣(七夕姫にお貸ししましょう、地上に咲く花々の美しい衣を)」から始まる連歌も開催しています。連歌とは5・7・5・7・7の和歌形式を、複数人が応答して詠む詩歌の一種で、通常は5・7・5の上の句と、7・7の下の句を別人が詠む形で行います。この時の連歌の記録は今でも残っており、政基が部下たちとどのような歌を詠んだかが分かります。

このように七夕の政基は和歌や連歌を楽しんだことが分かります。加えて文亀元年の記事には、酒宴を行ったことが記されています。しかし、その他の行事に関しては、旅の仮住まいであるために省略した旨も同時に記されています。つまり、この七夕は都で行っていたものと比

べると、簡易的なものであったのでしょうか。これは文亀2年以降も同様であったと考えられます。

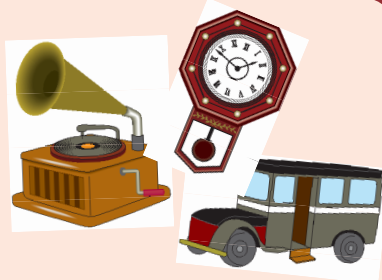
では、都での七夕はどのようなものだったのでしょうか。山科言国という貴族の日記に文亀2年の七夕の様子が記されています。言国は自宅での行事として和歌や笛の演奏をしたり、厄払いとして素麺を食したりしています。また宮中には花と和歌を送り、その後開催された宮中の恒例行事の雅楽と祝いの酒宴にも参加しています。このうち、和歌を詠んだり花を送ったりするのは貴族たちの中で広く行われていたことが他の記録に見えますし、雅楽や祝いの酒宴は例年儀式として開催されるものです。政基と言国の記録を比較すると、日根荘にいた政基の七夕はやや寂しいものであったといえるでしょう。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日(いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館)  
開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

②6学校シリーズ(6) 長坂小学校



▲昭和41年ごろの長坂小学校。北中小学校の児童数の増加により、長坂小学校は昭和41年9月に開校しました。

▼昭和54年の長坂小学校の空撮写真。現在プールがある場所には、長坂幼稚園がありました。



▲現在の長坂小学校の校舎。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中! !